

ムギ類赤かび病情報第1号（コムギ、六条大麦）

令和7年4月7日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

防除適期（開花始期～開花期）を逃さないように防除しましょう！

1 近年のムギ類赤かび病の発生状況

- ・前年（令和6年）5月上旬の巡回調査では、赤かび病の発生穂率が過去10年で最も高い状況でした（図）。
- ・近年、ムギ類赤かび病の発生量が高まっており、一次伝染源となる越冬した病原菌の量も多くなっていると推測されます。

2 防除対策

- ・ムギ類赤かび病の感染予防のための防除適期は、開花を始めた時期から開花期（※）までの間です。また、近年発生量が高まっているため、1回目（開花期）の防除から7～10日後に2回目の防除を実施し被害防止に努めましょう。
なお、防除の際は、耐性菌の発生を防ぐため同系統の薬剤の連用は避けましょう。
- ・名古屋地方気象台4月3日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みです。気温の上昇により、今後のムギの生育が早まる可能性があります。
生育予測ツール（Agrilook）を活用するなど、ほ場ごとの生育状況に特に注意し、防除適期を逃さないように防除を実施しましょう。
※開花期：1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50%に達した日

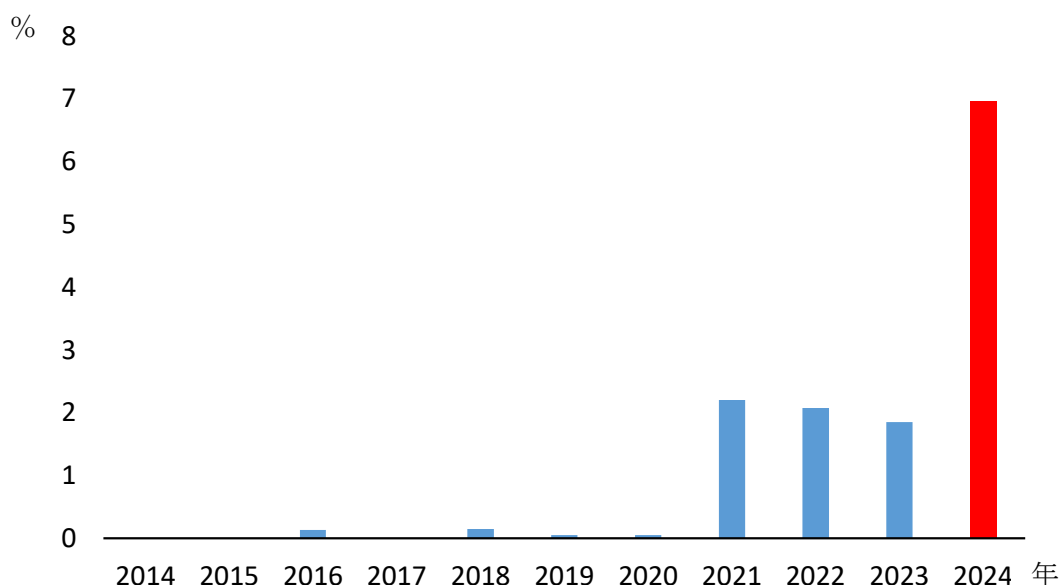


図 5月上旬調査におけるムギ類赤かび病の発病穂率（県内20ほ場の平均）

3 かび毒について

- ・本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけではなく、デオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を発生させることがあります。このため、麦類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html）」を参考としてください。